

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	4	施策名	健康づくり・医療の充実	
小施策コード	4-1	小施策名	健康の保持増進	
小施策 主管課等コード	069200	小施策 主管課等名	健康推進課	
評価責任者名	工藤 弘幸		内線番号	691-6210
評価シート作成者名	村上 富美子		内線番号	691-6210

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	生活習慣を起因とする高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病が年々増加しており、メタボリック症候群が疑われる早期の段階から、生活習慣病の発症を防止する取組が必要である。
取組の方向性	心身ともに健康を保持し、生涯を健やかに暮らすことができるように生活習慣病の早期発見と予防のための各種検診のほか、健康教育や訪問指導などの地域に密着した活動を推進して、市民が主体的に健康管理や健康増進に取り組める環境づくりを進める。
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	市民
意図 (対象をどのようにしたいのか)	健康を保つ活動が行われている

## Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていることを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目		単位	25年度 実績 (現状値)	27年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
A 健康教育参加者数	(→)	人	7,996	9,330	8,000	8,000
B がん検診受診率	(↑)	%	22.1	22.3	40.0	40.0
C	( )					

### Step 3 市民ニーズの把握

- 平成 26 年盛岡市主要死因別疾患は、第 1 位 悪性新生物、第 2 位 心疾患、第 3 位 脳血管疾患となっている。また、第 1 位の悪性新生物部位別でみると肺がん(気管・気管支含み)、大腸がん、胃がんが多くを占めている。  
以上を踏まえ、生活習慣病の予防に取り組むとともに、がんの早期発見と早期治療のため各種がん検診受診率の向上について取り組んでいく必要がある。
- 平成 27 年度盛岡市まちづくり評価アンケートにおいて、新たに項目に加えた「あなたは現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。」の回答結果は、「ある 18.4%」「ない、81.0%」「不明、0.6%」となっており、全体の中で「ない」と回答した割合が高くなっているが、市民の健康の維持・向上のためには、今後も継続して施策を推進していく必要があると考えている。
- 健康で健やかに過ごすことは、誰もが願うことであり、市民一人一人が「自分の健康は自分で守る」という意識をもって積極的に健康づくり取り組むことが重要であると認識していることから、市民と協働で健康づくりを推進していくことが重要である。

### Step 4 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	法に基づく事業であり、公平性・公益性を求められる事業のため盛岡市が主体的な役割を担うこととしている。	60
	国・県・ 他自治体		
	市民・ NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民自ら健康を保つ活動に取り組む。</li> <li>保健推進員及び食生活改善推進員は、地域の中で健康づくりの機会を提供していく。</li> <li>検診については、委託先である医師会等との密接な連携のもと、今後も事業の推進を図る必要がある。</li> </ul>	40
	企業・ その他		

#### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

(理由)

健康寿命の延伸を目的とした第 2 次もりおか健康 21 プランの推進にあたり、地域に密着した活動を通し、市民が健康づくりをすすめるために、関係機関と連携し実施することが必要であり、市が中心となり、つなぐ役割を担っていくため、現状維持となる。

## Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 成人健診事業において、がん検診受診者数が増加し、平均受診率が微増となった。
- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業において、27年度の施設利用者数は、前年度と比較し4.6%の増加となり過去最高を記録した。このことから、市民の健康増進に大きく寄与したといえる。
- ・ 衛生統計調査業務において、国の構成労働行政施策立案支援を行うことができた。
- ・ 保健所機能が十分に発揮できるよう施設の維持管理を行うことができた。

#### (2) 成果をあげた要因

- ・ 余熱利用健康増進センター管理運営事業において指定管理者が、長年の運営管理の経験をもとに様々な創意工夫をこらし、利用者に対するきめ細やかなサービスや人気のあるイベントを実施していること
- ・ 成人健診受診勧奨について、バスの吊り下げ広告の導入、公用車にPRステッカー貼付し保健活動を行うなど周知方法の工夫を行ったことに併せ、がん患者について、テレビ等で取り上げられ、早期発見の意識が高まり受診につながった結果と考える。
- ・ 衛生統計調査業務におい、各種統計業務を円滑に進め、正確かつ迅速な報告に努めたため。
- ・ 保健所管理運営17の業務を委託しながら、庁舎の適正管理を行っているため。

#### (3) さらに成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 健康づくり行動を推進する手段として、他自治体で取り組んでいる例を参考にし、がん検診受診者や健康教室受講者等への健康ポイント付与等の健康づくりに向けたインセンティブの提供について研究が必要。
- ・ 保健所管理運営については、公共施設保有最適化・長寿命化計画なども踏まえ、施設の保全に努める必要がある。

### 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

#### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 余熱利用健康増進センターは供用開始から14年が経過し、修繕を必要とする設備機器が増えているが思うように対応できていない。
- ・ 様々な周知を行っているものの、がん検診受診率が増加しない現状がある。

#### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 修繕に必要な予算を確保できないこと。
- ・ 健康づくりを推進していくためには、市民自らの健康に関する問題意識を喚起することが重要となる。

#### (3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

- ・ 予防保全を含めた計画的な修繕の必要性、重要性を理解してもらうこと。
- ・ 市民自らが健康を保つ行動につながる動機づけとなる工夫が必要である。

### **3 改革改善案（上記 1 (3) 及び 2 (3) で設定した課題に対する具体の取組）**

- ・ 健康ポイント付与等の健康づくりに向けたインセンティブの提供について、他自治体の例や関係課からの情報収集などを行い、施策化の可能性を検証していく。
- ・ 建物および設備機器の総合的な修繕計画を作成する。

## **Step 6 小施策と構成事業の関係性**

### **1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業**

- ・ 玉山地域と盛岡地域において、地域特性により、健康相談、健康教育、成人検診等それぞれの組織で予算を別に持ちながら同様の事業を実施している。

### **2 1で記載した事業についてその理由**

- ・ 類似事務事業を集約することにより、事務の効率化と予算の軽減が図られると考えられる。

### **3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）**

- ・ 事務量の増加に対応するための人員等の課題もあり、効率化を図る点だけに注目し、改善するのは現状では困難である。